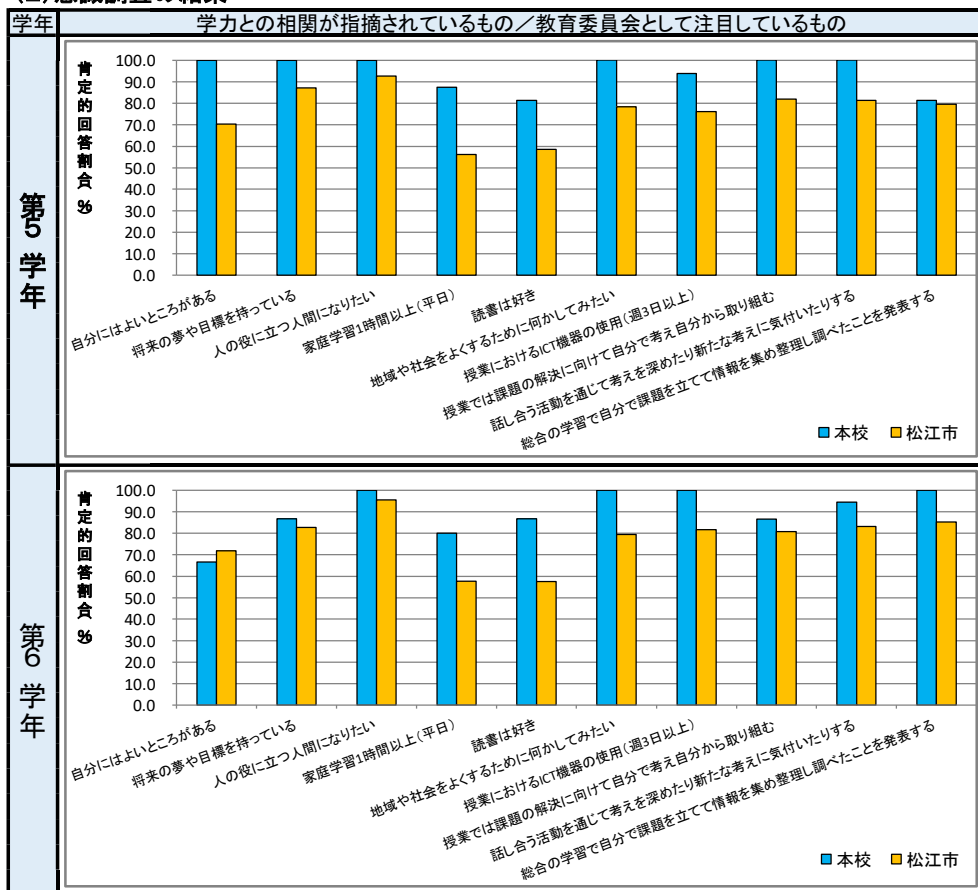


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(○)
第5学年	国語	成果 ○自分の考えを相手に伝えるように書き表す力は身に付いてきている。 ○我が国の言語文化に関する問題については、推定全国値を上回る結果となっている。 課題 ●4年生で学習した漢字の定着に課題が見られる。 ●身に付けるべき言語の知識・技能の定着に課題がある。 ●題意を正確につかむことができず、類型に当てはまらない回答をする児童が複数見られる。	・漢字の定着のために該当学年だけでなく下学年の漢字も繰り返し練習をする。 ・言葉の意味理解をするために類義語や対義語とつなげて学習を進める。 ・いろいろなパターンの問題に触れることができるようプリント学習を行う。
	算数	成果 ○全体的に市の平均を上回る結果となっている。 ○分数の計算の仕方については理解が進んでいる。 ○類題を経験した問題については、正答率が高い傾向が見られる。 課題 ●分数倍について、図を基にした数量の関係の読み取りに課題がある。 ●理解の程度に差があり、正答率に二極化が見られる。 ●経験のない場面や問題に直面すると、対応することが難しい傾向がある。	・いろいろな表現方法に触れる機会を授業の中でもつ。 ・二極化の改善に向けて、習熟度別の課題を用意するなどし、身に付けるべき力を十分に獲得できていない児童に対する指導形態を工夫する。 ・計算の反復の時間をとる。
第6学年	国語	成果 ○説明文では、文章の中から必要な情報を見つけ出し、設問に対して適切に答えることができる。 課題 ●言葉の特徴や使い方についての理解に課題が見られる。 ●物語文では、登場人物の心情や場面の様子を叙述に即して読み取ることに課題が見られる。	・語彙を増やすために読書を推奨したり、様々な言葉を使って文章を書く経験を積んだりする。 ・読んだことを要点でまとめてアウトプットする経験を積む。 ・分からない言葉を国語辞典で調べるだけでなく短文を作るなどして活用する機会をつくる。
	算数	成果 ○基礎的な計算については、正確に解くことができている。 ○「数と計算」「データの活用」「比と比の値」「データの調べ方」の領域では、推定全国値と同程度の力を身に付けている。 ○対称な図形は、性質を理解し問題に活用できており、推定全国値を上回っている。 課題 ●思考・判断・表現の観点においては、推定全国値を下回っている ●図形領域の「拡大図と縮図」「面積や体積」の問題は、正答率が全国値を下回っている。 ●既習の内容を組み合わせて活用することや、解き方や考え方を言葉や式を用いて説明することに課題が見られる。	・式からどんな考え方をしたのか読み解き、説明する機会を増やす。 ・適応問題を解いて必要な力をつけるとともに、どうやって解いたかを互いに伝え合うことで説明する力をつけていく。

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○：強み/伸ばしたい点 について
 課題●：弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

○「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」「人の役に立ちたいと思う」などの項目で肯定的に回答した児童が非常に多く、自己肯定感や将来志向、社会貢献意識が高い。
 ●総合的な学習の時間において、自ら課題を立てて探究する学習への意識がやや低く、指導の工夫が求められる。

【第6学年】

○平日に1日1時間以上学習する児童や、読書が好きな児童が非常に多く、家庭学習や読書の習慣が定着している。
 ○総合的な学習の時間において、自ら課題を立て、学習に取り組んでいる児童が多い。
 ●主体的に学習へ取り組む姿勢は見られるが、個々のよさや努力を認め合い、自信につなげる働きかけを充実させる必要がある。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	16	名
第6学年	15	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示